

異文化理解における授業実践

永池 幸一 商業
NAGAIKE KOICHI

実践校・長野市立臯月高等学校
現任教・長野県北部高等学校

- 実践教科……………異文化理解
- 時間数……………18時間
- 対象生徒・学年……………2年生
- 対象人数……………16名

カリキュラム

実践の目的

開発途上国を学習することから、世界の現実を理解

し、その中で日本の姿を見なおし、自分の生き方を見つけ出す。

授業の構成

時限・テーマ・ねらい		使用教材
1時限 本授業の進め方について (正解のない授業であることを話す)	(1) 「パースデーライン」ゲーム(言葉を使わずに、誕生日順に整理) (2) バングラデシュで撮影した写真をジグソーパズルのように分解し、これを選びグループ分けをする。 (3) フォトランゲージ(グループごとにジグソーパズルの写真やJICAの写真)による説明	・写真(現地の写真)をジグソーパズルのようにしたもの(資料1) ・JICAのフォトランゲージキット
2時限 開発途上国とは	フォトランゲージの続き 開発途上国の実態を示す。 ・熱帯雨林の実情(伐採・砂漠化・生物の絶滅・地球温暖化) ・学ぶ機会のない子供たち(金銭的問題・学校施設の問題・先生の問題・少年兵) ・国民所得(ワイングラス・ストリートチルドレン)	・JICAの広報新聞等
3時限	開発途上国の実態の続き バングラデシュで取ったアンケートを示し、同様のアンケートをとる。	(資料2、3)
4時限 貿易ゲームを通して世界の实態を知る	(1) 貿易ゲームの概要説明 (2) 貿易ゲーム	・貿易ゲームのキット
5時限	貿易ゲームの続き 感想文の記述と発表	
6時限 途上国の貧困の実態を知る	「神の子たち」の映画(VTR)を見る。	・VTR「神の子たち」(監督 四ノ宮浩)
7時限	「神の子たち」の映画の続きと感想文	(資料4)
8時限	小テスト(15分間ほど)	
9時限 開発途上国を調べる	開発途上国に関する各自のテーマを決めて、調べる。	・インターネット
10～11時限	レポート作成の続き	(資料5)

時限・テーマ (ねらい)	内容	資料
12時限 レポートの発表と Bangladesh の食を体験する	(1) 各自のレポートを発表する。(質疑) (2) Bangladesh ・チキンカレーとチャイのレシピを学ぶ。	(資料6) ・現地駐在の日本人より教えていただいたレシピ ・インターネットで調べたチャイのレシピ
13時限 Bangladesh の食を体験する	Bangladesh ・チキンカレー作成	・カレー・チャイの材料
14時限	チキンカレー作成の続き 感想文の記述	(資料7)
15時限 協力隊員OBの話を聞く	開発途上国のイメージを列挙し、これらに関連付ける。	・模造紙、付箋 (大)、マジック (6色大・小)
16時限	(1) 上記の内容を発表する。 (2) 協力隊の活動内容や現地の様子の話と絵本による日本企業の森林伐採の実態の話 (3) 質疑と感想文の記述	(資料8)
17時限	小テスト (15分間ほど)	
18時限 最終のまとめ	(1) ダッカ体育大学の学生のアンケート結果の感想記述 (2) Bangladesh 救援 (募金) の呼びかけ (3) 開発途上国の思いやこれまでの学習を振り返り、総まとめをする。	・ダッカで取ったアンケート ・Bangladesh 寒波救援募金記事 ・写真 (現地の写真) (資料9、10、11)

授業の詳細

1時限 正解のない授業

1. ねらい

「異文化理解」の授業で、私が担当する時間は、正解のない授業であることを理解してもらうために、ゲームのようなものから入り、思っていることを発表する。

2. 授業の展開

- (1) 「パスデーライン」ゲームを行う (一切言葉を使わずに誕生日順に並ぶ)。
- (2) 4枚の Bangladesh で撮影した写真を、ジグソーパズルのように分解し袋の中に入れ、これを選び、同一の写真の人でグループ分けする。
- (3) 各グループで完成したジグソーパズル写真と1枚ずつ渡した JICA 作成の写真を見て、そこから読み取ることを発表する。(フォトランゲージ)

【撮影写真】資料1

3. 生徒の反応

正解のない授業であることに戸惑いを持ちながらも、何かいつもとは違う雰囲気を感じたようであった。

2~3時限 開発途上国とは

1. ねらい

理解しているようであるが、正確にはその実態を理解してはいる世界の現実を理解する。

2. 授業の展開

- (1) JICA より送付していただいた新聞や広報誌をもとに、クイズを作り答えを聞きながら授業を進める。
 - ① 熱帯雨林の実情 (毎年どれくらいの木材が伐採され、材木の利用実態と伐採地はどうか・そこに生息する生き物や地球の温暖化を考える)
 - ② 学ぶ機会のない子供たち (ストリートチルドレンの数・学校に行けない子供たちの数・その理

由を考える)

- ③経済的に貧しい途上国(世界の8割が途上国に住む・2割が1日の収入が\$1で生活・世界人口の半数(30億)は1日\$2以下の収入・サッカーボール1個縫っても¥20にしかならない実態を考える)

(2)バングラデシュの説明

- ①ダッカ体育大学でとったアンケートを示し、生徒にも同様のアンケートをおこなう。回答は英文としたが、日本語で説明を加え日本語の回答でもよとした。
- ②「自分にとって幸せとは」という題で作文をする。

【アンケート内容】資料2 【作文】資料3

3. 生徒の反応

新たな世界を知るという内容であったため、比較的真剣に取り組む姿勢が見られた。今回の質問は、無ヒントから次第に回答に近づける形のクイズ形式で行った。反省点として、生徒のアンケートは、ダッカ体育大学の結果を示す前にすべきだった。

6~7時限 途上国の貧困の実態を知る

1. ねらい

世界の中で最貧国ではないと思われる国フィリピンの、最も貧しいと思われる生活を送っている人々の実態を理解する。貧しいことが、人生のすべてを否定するものなのかも考える。

2. 授業の展開

「神の子たち」の映画(VTR)を見る。

VTRの概要(一部パンフレット引用)

フィリピンのスラム“スモーキーマウンテン”が1995年に政府により撤去された。一部の人が、ケソン市のバヤタスゴミ捨て場へ移り住んだ。1週間降り続いた雨の後、大きな崩落事故がおきた。5日後政府はゴミ捨て場を閉鎖し、ゴミの搬入をとめた。そこから生活の糧を得ていた人々はデモを始めた。1ヵ月後自然発火が起り、まだ掘り起こされていない死体のおいが村全体を覆っ

た。続いて、映像は神の子(フィリピンでは先天性障害をもって生まれた子供を神の子という)アレックスの生き様、ノーラの母親の破水による死産、ニーニヤの父親の生活などを映し出している。

3. 生徒の反応

内容がたいへん重たいもので多少の不安があったが、生徒は真剣に見ていた。なかなか見ることのできない映画であり、貴重な経験となったと思う。

【感想】資料4

9~12時限 開発途上国を調べる

1. ねらい

各自が開発途上国に関するテーマを見つけ、世界の实態を調査する。

2. 授業の展開

インターネットにより、各自の設定したテーマを調べ、レポートにまとめる。

3. 生徒の反応

自分でテーマを見つけ、調査するという手法はあまり経験したことがないため、当初は戸惑っていた。また、インターネットで調べだした資料が沢山ありすぎてどのようにまとめてよいのか苦労していたようである。しかし、なかなかよいものが出来上がった。

【感想】資料5 【レポート】資料6

13~14時限 バングラデシュの食を体験する

1. ねらい

食の面から異文化を理解する。

2. 授業の展開

簡単なレシピから現地のカレー・チャイを作る。

3. 生徒の反応

体を動かすことが好きなのか、料理そのものが好きなのか、簡単なレシピにもかかわらずみなよく工夫し、楽しそうに行動していた。

【感想】【料理風景】資料7

15~16時限 協力隊員OBの話聞く**1. ねらい**

日本の協力活動の実態を理解する。

2. 授業の展開

協力隊OBのお話を聞きながら、ワークショップ(途上国について思うことを付箋に書き模造紙に張り、ある項目でグループごとにまとめ、そこから何か共通性を見つけまとめる)。絵本の朗読より、パプアニューギニアで日本企業が行った森林伐採による熱帯雨林の破壊について考える。

3. 生徒の反応

日ごろ接していない外部の方が授業をしたこともあり、普段にも増して真剣に参加し、しかも積極的にワークショップ等に取り組んでいたように思う。

【感想】資料8

18時限 最終のまとめ**1. ねらい**

開発途上国への思いなど、授業や学習調査内容を振り返り総まとめをする。

2. 授業の展開

ダッカ体育大学でとった学生のアンケート結果に対する感想記述。バングラデシュ救援(募金)の呼びかけとバングラデシュで撮った写真を映す。18時間の授業における感想を記述する。

【アンケート結果】資料9

3. 生徒の反応

【感想】資料10 【感想】資料11

資料1 1時限で使用した撮影写真

地区評議員の家に集まりデジタルカメラを覗き込む子供たち



バスからカメラを向けると手を振るダッカ市内のストリートチルドレン



船着場に集まり、写真を撮るよう話す若者たち

資料2 3時限 アンケート内容

Questionnaire

Hello! Please fill out this Questionnaire in English

1. How old are you?

() years old.

2. If you have a lot of money now, what do you want to buy?

()

3. What do you want to be in the future?

()

And why?

()

4. What is valuable thing to you?

(ex. Family, friends. Peace etc)

()

5. What do you expect the Government to do for you now and in the future?

()

Thank you very much.

資料3 3時限 作文「幸せとは」

- ・日本に戦争がないこと。食事ができること。友達家族がいること。
- ・何もなく平凡なこと。災害とかがないこと。誰かを信用したりされること。
- ・お金があったり、不自由のない生活や発展している生活が幸せとは思わない。生きていけば嫌なこともあるけれど、とりあえず生きていけば幸せだと思う。
- ・信頼し合える友達や家族がいて、自分の居場所があること。生きがいがあること。

資料4 7時限 「神の子たち」のVTRを見た感想

- ・毎日当たり前のように赤ちゃんが病気がかかって死んでいく、お金がなく食料もない、学校もまともに通えない、ゴミ捨て場でごみを捨てて生活していくしかないなんて、とても悲しい現実だと思います。その現場がフィリピンというのにも少し驚きました。なぜなら、私の中のフィリピンは、ビデオの中のような国ではなく、発展途上の中でも、首都などは近代的だし、ものすごく貧しい国とは思っていなかったからです。
- ・世界中でフィリピンみたいな国はどれだけなんだろうと思った。日本にはこんなに物があまっているのにフィリピンには何もないのか。どうしてビデオに映っている人たちはあんなに苦勞して生きなければならないのかが良く分からない。世界が豊かになってみんなが笑って過ごせる時は、いつくるんだろうと思った。自分はなにをすればいいんだろうと思った。
- ・子供たちは、お腹がすいているのに食べることができなかつたり、家が貧しいのに文句をいわずに働いていました。これはかなりスゴイことだと思います。私たちは、何もかもそろっている。何一つ不自由なく生活しています。それなのに文句をいったり、何かを欲求したりしています。私たちは、不自由のない日本に生まれたのだから、これ以上何かを欲求すべきではないと思います。というか、このままの生活で満足すべきだと思います。

資料7 13～14時限 バングラデシュの料理体験

【感想】

- ・初めて、バングラデシュのカレーを作ったのは、いつものカレーと作り方が違ったということです。なんかいつも食べているカレーは、もっとどろどろとしているけど、バングラデシュのカレーはまさに、魔女が煮込んだスープって感じでした。味は良くわからなかったけど、辛さは良くわかった。チャイは普通のミルクティって感じでした。
- ・チキンカレーとチャイを作ってみて、作り方は日本とほとんど一緒だったけれど、香辛料などはまったく違っていた。私たちの班は唐辛子を入れすぎて、すごく辛くてあまりおいしくなかったです。チャイはチキンカレーと比べてすごくおいしかったです。
- ・思ったより楽しかったです。チャイを飲みすぎて、おなかがチャボチャボしてしまいました。
- ・結構おいしくできたと思う。香辛料の調合が難しかった。国によってこんなにカレーの味とかが違うんだなあと思いました。日本だとルーを入れればできるけど本場のカレーは結構作るのが大変だなあと思いました。

【料理風景】



香辛料の調合



鶏肉とゴロンショモラと玉ネギをいためる



チャイの作成

資料8 16時限 協力隊OBによるワークショップの感想

- ・パプアニューギニアの話聞いて、首都ではビルや大きな建物があって、今まで思っていた以上にいろいろのものがあってビックリした。田舎の人達もちゃんと服を着ていた。ちょっと安心。スーパーみたいなところは、ただ野菜が置いてあるだけであまりスーパーと思わなかった。写真を見ると、どの人もみんな笑顔でした。日本人はすべてにおいて忙しいと言っていたけど、本当だなと思った。確かに、日本人は少し“セカセカ”しすぎだと思った。そして、パプアニューギニアの人たちの明るさが、今回の授業で分かったし、感心しました。
- ・パプアニューギニアのイメージは、もっと貧しい国だと思っていたけれど、服や食べ物がちゃんとあり、そんなに貧しい国でもないと感じられた。日本に比べると貧しい国だけれど、子どもたちは、笑っていたし、日本の子どもたちよりは幸せそうに見えた。近代的な生活が幸せとは限らないと思った。
- ・パプアニューギニアは発展途上の国だけれども、人々がとても楽しそうに生きていた。心が豊かであれば、発展途上国でも良いと思った。けれど、心の豊かさや自然の豊かさを、日本をはじめ他の先進国がむやみに奪ってしまったという紙芝居を見て、決して許されることではないと思った。

資料9 18時限 バングラデシュの学生へのアンケート

ダッカ体育大学 アンケート結果 (女性)

年齢	購入したいもの	どんな職に就きたいか	(その理由)	大切な物 (価値のあるもの)	政府に期待すること
25	本	総理大臣	自国を愛しているから	家族	飢えのない国を
26	日本に行くためのビザ	日本で暮らしたい	日本人は勤勉である	日本の友達	日本への留学のための奨学金
20	コンピュータ	大臣	to carry out the people	平和	平和な国
25	役に立つ本	理想的な先生	理想的な先生は良い国を作る	家族	理想的な先生には多くの給料を与え、学校の設備をよくする
26	きれいな家	先生	多くの読み書きのできない人に教えたい	家族	正直と平和
27	スポーツ用品	体育の先生	Physical teacher crisis in Bangladesh	平和	平和と幸福
27	スポーツ用品	体育の先生		平和	平和と幸福
27	新しい本	先生	自国には盲目の人がたくさんいる	家族	平和と幸福
22	たくさんの本	体育の先生	好きな職業	家族	飢餓のない国
25	スポーツ用具	体育の先生	体育の先生が不足	平和	平和と幸福
30	良い本	理想的な先生	素晴らしい国を作れるから	家族	先生に多くの給料を与え、学校施設を整える
25	家	良い先生	教育を受けた世代を作れるから	平和	国の発展
25	多くの本	良い体育の先生	立派な職業だから	平和	平和な国でありつづけること
25	コンピュータ	体育の先生	良い人生を送る手助けをしてくれる	平和	国から良い仕事がほしい
31	美しい家	女性教育大臣	地方の女性の就学率を上げる	家族	すべての非政府学校を認める
23	コンピュータとスポーツ設備 日本に行きたい	政府の体育の先生	健康と身体の知識を教えたい	家族と息子	体育の良い先生となるための機会
33	学校の体育施設	政府の体育の先生	自校のボーイスカウト・ガールスカウトを作りたい	家族	体育の教員を正しく評価して欲しい
25	花・本と美しい人を助ける	良い市民	国が必要とすることに貢献する	絶対に母親	自分を高い教育者に導いて欲しい立派なソーシャルワーカー
28	本	良い先生	良い先生は個々の生徒の隠れた宝物を見つけてあげられる	家族	貧しい人に手を差し伸べる
22	本	良い先生	?	家族	国の発展
22	たくさんの本	良い先生	良い先生は個々の生徒の隠れた宝物を見つけてあげられる	家族	貧しい人に手を差し伸べる
23	良い本	良い先生	自国の読み書きのできない人に教えてあげたい	平和	貧しい人に手を差し伸べる

ダッカ体育大学 アンケート結果 (男性)

年齢	購入したいもの	どんな職に就きたいか	(その理由)	大切な物 (価値のあるもの)	政府に期待すること
24	食料	正直な人	人の基本であるから	平和	体育の先生を育成する
27	本	良い先生	正直で立派な職業だから	平和	環境汚染対策
26	住み心地の良い家	良いスポーツ選手	自分の趣味を活かせる	家族	環境汚染対策
23	アパート	体育の先生	体育の先生を目指しているから	家族と平和	働く場所を作り平和に暮らせるように
25	体育教育の本 トレーニングマシン	体育の先生	好きな職業	家族と平和	経済的に豊かで平和な国
23	バイク	体育の先生	スポーツマンだから	家族と平和	働く場所を作り平和に暮らせるように
22	本とコンピュータ	先生	国を発展させるため	教育	国を発展させずと平和な社会である
22	本とコンピュータ	先生	国民を教育するため	教育	国を発展させずと平和な社会である
27	繁邸	理想的な先生	国民に良いものを与えたい	平和	衣食 教育 医療
24	教育にお金をかける 社会福祉活動	良い先生	立派な職業だから	平和	安全な生活
23	教育にお金をかける 社会福祉活動	良い先生	立派な職業だから	平和	安全な生活
23	体育用具	良い選手	世界で有名になる	平和	より良いスポーツトレーニングシステム
29	体育用具	体育の先生	自分にとって良い選択だから	家族	良いサービス
27	車	ビジネスマン	たくさんのお金を得たい	平和	仕事
23	コンピュータ	スポーツインストラクター	良い選手を育てる	平和	雇用
24	本	先生	教育は国の柱	友達	仕事
25	本	先生	先生が好きだから	家族	仕事
29	たくさんの本	先生	私達は無知だから	私たちの国	学生への援助と将来の仕事
27	たくさんの本	スポーツインストラクター	良い選手を育てる	私たちの国	仕事と雇用
25	たくさんの本	先生	私達は無知だから	私たちの国	学生への援助と将来の仕事
26	体育用具	体育の先生	国を幸せにし健康にするから	平和	全ての人に教育を
26	体育用具	理想的な先生	良い先生は良い国を作るから	家族	仕事のチャンス
25	コンピュータ	良いスポーツ選手	身体的健康をもたらす	家族	教育を受けた国民
24	トレーニング機器	組織の長	経験のある組織の長がいらないから		真のリーダーを育てる

資料10 18時限 ダッカ体育大学のアンケートについての感想

- ・まず、日本人と考え方がまったく違うと思った。たとえば、大切なものは、日本人では「平和」と書く人はいないと思った。日本人と同じ質問をすると「お金」とか「自分の持っているもの」などと答えると思う。
- ・全体的に、今の国に満足していない人たちが、自分たちの力で国を何とかしようと考えていることが伝わってきた。
- ・「どんな職につきたいか」という質問では「良い〇〇」が目立つのだけど、それは何でかなあと思った。
- ・みんないろいろな夢があっていいことだあと思った。日本だと夢がない人が多いのでこういうところは見習うべきだと思った。みんな教育のことを考えていて、教育はやっぱり大事なんだあと思った。少しでも夢がかなってほしいと思った。
- ・職に就きたい理由がすごく立派と思った。家族や平和がみんな大切なんだあ。先生を尊敬している人がほとんどでびっくり。
- ・就きたい職が決まっていますかと思った。先生になりたいという人たちの理由が、国に関係しているようだ。日本人は、あまり国のことを考えないから、こんな理由はありえないと思った。

資料11 18時限 開発教育の授業を受けた感想

- ・発展途上国についていろんなことを学びました。貿易ゲームでは「たぶん人は、最初みんな平等なんだと思うけど、ずる賢い人が上に立ち正直な人が下に行ったんだ」と思った。たくさん国の生活習慣を学べて楽しかった。
- ・楽しかった。チキンカレーはあまりおいしくなかった。本場のもあんな味なのかなって思った。貿易ゲームは、貧乏な国はリッチな国にはなかなかかなれないんだな。そんなことが分かったと思う。
- ・発展途上国を勉強して、現状が分かり今まで知らなかったことばかりで、とても勉強になった。今まで、自分が発展途上国に対してできることがあるかなって考えたこともなかったけれど、少しでもできることがあったらやっていきたいと思った。
- ・貿易ゲームで、先進国と発展途上国の差がよくわかった。発展途上国のことはなんとなくしかわからなかったけど、自分で調べてみて現状など知ることができてよかった。

参加動機およびプロフィール

今年インドネシアのバリ島と韓国への2回の海外旅行を経験しました。バリ島では日々の生活に追われながらも活気に溢れた人達を見、韓国ではガイドさんの国を思う気持ちに圧倒されました。これらの経験と比べ、日々の暮らしを漫然と過ごす少なからずの日本人とのギャップを感じました。特に明日への希望を持たずに何をしたら良いのか、なかなか考えることができなくなっている若者の姿と比較して色々と考えさせられました。そこで、今回の研修をもとにパングラデシュの文化を理解し、日本の若者像とを比較しながら、生徒とともに今後の生き方などを考えることができると思い志望しました。また、これまで直接国際理解教育に携わってはきませんでしたが、本校はアメリカの姉妹校と生徒の相互受け入れを行っており、これを「国際理解委員会」と「生徒会」が中心となり担当していますので、生徒会関係の長として留学生受け入れに協力していく予定です。

新教科「平和と共生の科学」

三小田 博昭

外国語

SANKODA HIROAKI

国立名古屋大学教育学部附属高等学校

- 実践教科 …………… 新教科「平和と共生の科学」
- 時間数 …………… 18時間
- 対象生徒・学年 …………… 2年生 3クラス
- 対象人数 …………… 各40名

カリキュラム

実践の目的

既存の教科では十分対応ができない内容に関して系統的に学習をすすめるために総合学習（1単位）の他に新しく設置された教科（1単位）が「新教科」である。この授業では開発教育（三小田と名古屋大学国際

開発助手の2名で担当）・生命倫理（生物教師が担当）・ジェンダー（家庭科教師が担当）の3点から「共生」という大テーマに多角的なアプローチを展開し、新しい教科の新設を目的とする。

授業の構成

時間	貧しさと豊かさ	ヒトと人	女と男
1時限	途上国の現状を知り、途上国には何が必要なのかを考え先進国に住む人間は何をしなければいけないかを考える。	人間もまた生物の一員である。人間の生物学的な本性を理解した上で共に生きやすい社会を構築するヒントを探る。	女と男、♀と♂。違う？同じ？共に生きる平和のために何が大切かをジェンダーの視点から探る。
2時限	ABC組とも バングラデシュ体験報告 ベトナム体験報告		ABC組とも 「セックスとジェンダー」 「女のくせに…」 「男のくせに…」
3時限		ABC組ともこのコースのめざすもの希望クラス分け（10分）	
4時限	ブレンストーミング 1枚の写真から見える 「貧しさと豊かさ」 I	「氏か育ちか」 遺伝か環境か ミニ討論	ジェンダーを見つけよう① 「良かった女で、(男で)」それってセックス？ジェンダー？
5時限	1枚の写真から見える 「貧しさと豊かさ」 II	社会ダーウィニズムと優生学	ジェンダーを見つけよう② 「女」「男」の入っている言葉を辞書で探そう。そこから何が見える？
6時限	世界の中のジェンダー① 開発教育とジェンダー 「発展途上国の現状」 カンボジアでの少女売春	学外講師（生命倫理学） 講師 名古屋大学医学部研究課長	世界の中のジェンダー① 開発教育とジェンダー 「発展途上国の現状」 カンボジアでの少女売春
7時限	ナイジェリアからのゲスト ジョセフさん話	進化の概念 進化に関する誤解を解く	世界の中のジェンダー② 北欧の社会制度と教科書
8時限	文化、人種の違いによる摩擦体験 「ひょうたん島問題」 カーニバルがやってきた	ヒトの進化 ・遺伝子と行動	世界の中のジェンダー③ ノルウェーの教科書より 「女と男の違うところより同じところに注目しよう」
9時限	教育問題の現状 途上国における教育問題 識字についてのウェビング	ヒトの進化 ・霊長類の進化	メディアとジェンダー ジェンダーを再生産するものはなにか (メディアリテラシー)

10時限	識字についてのウェビング説明 非識字体験（ハングル等）	協力行動力の進化 「囚人のジレンマ」ゲーム	新聞、雑誌、漫画等の中からジェンダー バイアスの表現（写真）を見つけて模造 紙に貼る
11時限	中間報告会（クラス単位）	中間報告会（クラス単位）	中間報告会（クラス単位）
12時限	日本の援助 「JICAくんの国際協力って知ってる？」 援助と開発（ランキング）・I	ジェンダーフリーの社会を目指して ーセックスは2つでないー ゲスト（松尾）	ジェンダーフリーの社会を目指して ーセックスは2つでないー ゲスト（松尾）
13時限	援助と開発（ランキング）II ランキングを通して考えること ODAについて	行動の生理学	「女と男、♀と♂」 冬休みの宿題提出及び討論会
14時限	「開発とボランティア・人はなぜ助け合 うのか」	「開発とボランティア・ヒトはなぜ助け 合うのか」	「平和と共生」とジェンダー なぜジェンダーにこだわる必要があるか
15時限	報告書作成（クラス単位）	報告書作成（クラス単位）	報告書作成（クラス単位）
16時限	貧困の鎖の変形 平和と共生の鎖 カード作り（3グループ合同）	貧困の鎖の変形 平和と共生の鎖 カード作り（3グループ合同）	貧困の鎖の変形 平和と共生の鎖 カード作り（3グループ合同）
17時限	貧困の鎖の変形 平和と共生の鎖 ワークショップ（3グループ合同）	貧困の鎖の変形 平和と共生の鎖 ワークショップ（3グループ合同）	貧困の鎖の変形 平和と共生の鎖 ワークショップ（3グループ合同）
18時限	アンケート・調査・小論文 （クラス単位）	アンケート・調査・小論文 （クラス単位）	アンケート・調査・小論文 （クラス単位）

授業の詳細

注) 以下の内容は「貧しさ」と「豊かさ」に関する記述である。

2時限 バングラデシュ・ベトナム体験報告

授業の導入として視覚的に途上国を体験する。バングラデシュで撮影した映像をドキュメント風にアレンジし、今後の授業の意味を理解する。またベトナムに関する教育環境もパワーポイントを利用し授業の導入にあてた。

4時限 ブレーンストーミング

「地球家族」の中から4枚の写真（ブータン、ユーゴスラビア、マリ、日本）から「豊かさ」と「貧しさ」を出し合う。またこの国の写真かを類推する。



写真① カンボジアの少女売春の背景について

6時限 世界中の中のジェンダー（写真①）

家庭科教師のジェンダーグループとの合同授業。カンボジアの少女売春の背景をロールプレイで疑似体験する。その後現状理解と振り返りを行う。

7時限 ナイジェリアからのゲスト（写真②）

ナイジェリアからゲストを迎え、途上国の現状や問題点を英語で聞く。また先進国に期待することや「豊かさ」とはなにか「貧しさ」とはなにかをゲストの立場から語ってもらい交流をはかる。

8時限 「ひょうたん島問題」

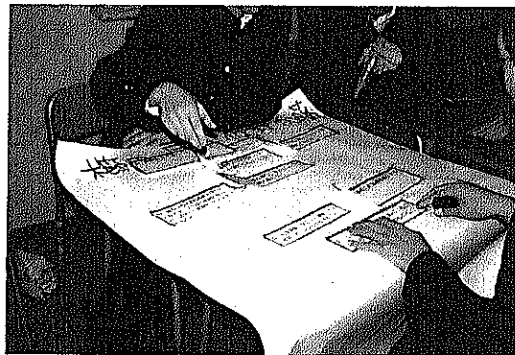
コンピュータシミュレーションを利用し、ナイジェ



写真② ナイジェリアのジョセフさんのお話



写真③ 非識字からはじまるウェビング



写真④ 援助についてランキング



写真⑤ 「平和と共生の鎖」

リアを始め、文化、人種の違う人達の集合体における摩擦を疑似体験する。

9時間 途上国における教育問題 (写真③)

非識字から派生するウェビングを行い、言葉が読み書きできないということがどのような問題を引き起こしているのかを考えた。その後、ハンゲル語の地下鉄地図、ベトナム語のコーヒー、ベンガル語の教科書を使い、ワークを行った。

12時間 日本の援助 (写真④)

途上国の現状をある程度学習した上で、日本がどのような援助を行っているのかを、JICAのビデオを使い理解した。それに引き続き、援助という大テーマに小テーマを与え、ディベートを実施した。また援助についてのランキングを行った。

16~17時間 平和と共生の鎖 (写真⑤)

「貧困の鎖」を変形させた「平和と共生の鎖」をカード作りから行い、「平和と共生」のためには何が必

要なのかをグループワークによって考えた。

18時間 研究集録の作成

授業のまとめとして、研究集録に自分たちの考えを集録に残した。

生徒の感想

【中間報告会編】

発表しあってみて、まだたくさんの方に固定概念があるのかなと思った。またそのような中で共生していくには相手の事を固定概念などで決めつけず、理解することが大切だと思う。そのためには識字率を高めたり安定した政治をすべきだと思う。またナイジェリア人の話しを聞いて日本がどれだけ豊かで、幸せな国と思った。2km離れたところではもう言葉が違うことにも驚いた。またその中で人々の意見をまとめたり、政治をしていくのは本当に大変だと思う。しかし力ではなく話し合いを大切に戦争を起こさないでいきたい。戦争で残るのは悲しみだけであり、他には何も残らない。また物がたくさんあるから幸せというわけではないこともわかった。

物がなくても幸せな人々はいる。そのような事に捕われなくて、平等に考え話し合うことが大切だと思う。

【研究集録編】

この「貧しさと豊かさ」のテーマを通していろいろなことを学べたと思う。私たちが考えていた「貧しさ」の感覚はその貧しい人達とは違うこと。私たちが当たり前のようになっている教育が本当は重要だということ。議論・体験等を通して知った。字が読めない、書けないということ、「非識字」が与える影響というものがあることを私は知らなかった。教育を受けられないから彼らは常識を知らない。貧しいから生き延びることが精一杯である。けれど、非識字なので商売などで簡単に騙されてしまう。女性などでは子どもを死なせてしまうことに繋がってしまう。教育を受けようにも、国が貧しいからそれもできない。悪循環がそこにはある。なら、どうすればいいか。援助といってもまず、何をすればよいのか。何が大事なのか。ここにも困難なことがたくさんある。資源が豊かであれば必ず人が幸せになれるわけではない。国を成立させようにも世界は広い。たくさんの民族が存在し、多数の文化・宗教・習慣・言語がある。そして差別も民族間の

対立もあるのだ。争いの火だねは、どこにでもある。これらのことから本当に平和と共生というものは難しく、かつとても大切なことだと思った。そして貧困をなくすということも、平和と共生への道に繋がっているのだと、私は思う。今回このテーマを少しでも学ぶことができてよかった。

成果と課題

「平和と共生の科学」という試行中の教科という意味合いもあり、毎回の授業が本当に手探りの状態で不安を持ちながらの試みであった。この中で1番の悩みの種となったことは、「私自身の開発教育に関する経験の乏しさ」と「途上国の諸問題についての私の教養・知識のなさ」であった。それをカバーするために、頼ったのが今回の研修であり、さまざまな開発教育に関するワークショップであった。また共同授業者として名古屋大学国際開発の先生に毎回授業をともにしていただいたことが大きな安心とともに、私自身の学習であった。来年度からも継続して「平和と共生の科学」を担当するので、今年度の反省を生かし、来年度さらに充実した授業にしたい。

教 材

「地球家族～世界30か国のふつうの暮らし～」(TOTO出版) 「ひょうたん島問題 ～多文化共生を目指して～」 JICAビデオ「JICA 君の国際協力って知ってる？」

参考文献

「わくわく開発教育」(開発教育協議会)「いきいき開発教育」(開発教育協議会)「地球市民を育む学習」(明石書店) ODA民間モニター報告書(平成13年度版) JICA国際協力(7月号2002 12月号2002) T・NET通信(unicef) 開発のための教育(unicef)

参加動機およびプロフィール

これまで自分自身英語教員をしていながら、授業を通して生徒に伝えている中身が言葉という表面上のものだけに留まってしまい、その奥にある複雑極まりない諸外国の諸問題に関する私自身の知識の乏しさから、深みのある授業を何とかしてできないものかと思っていました。この研修を通し、様々な角度からの世界観を身に付け、途上国と言われる国々を通して見ることで、生徒たちに伝える英語に深みを与えることができました。また、21世紀の中心を担う生徒たちに「本当の教育」をしたいと思い今回の海外研修へ応募させていただきました。本校では10年来、総合的な学習「総合人間科」に取り組んでいます。昨年私は高校2年の「国際理解と平和」を担当し「沖縄から世界を見る」「世界宗教と現代との関わり」「国際関係問題」を生徒とともに学びました。一昨年は高校1年生で「ストリートチルドレン」「国際理解」の一部を受け持ちました。これらの授業の中身を充実したものにすするため、また私自身の体験・知識を増やすため、様々な団体が主催するワークショップ等に参加し学習の機会を増やすことに努めています。日本で得た知識にプラスして、途上国での体験を私自身することにより、今までよりも多くの事を生徒に伝えられると思い、研修に参加しました。

開発や経済協力はだれのため

犬飼 繁

INUKAI SHIGERU

公民

実践校・岡山県立倉敷工業高等学校

現任校・岡山県立総社南高等学校

●実践教科 ……………公民（現代社会）

●時間数 ……………6時間

●対象生徒・学年 ……………3年生（電気科）2クラス

●対象人数 ……………78名

カリキュラム

実践の目的

日本は現在、開発途上国への経済援助を大幅に増額しているが、この日本のODAについて、①その特徴を

把握し、②その問題点を考え、③受け入れ国の国民生活を本当に向上させるためには、どうあるべきかを考えたい。

また、これらの問題を考えるうえで、具体的な事例としてメキシコにおけるJICAの活動について学ぶ。

授業の構成

時限・テーマ・教材	内容	使用教材
1時限 ミスターNGO中田正一	TV「知ってるつもり」で放送された中田正一のVTRを見て、中田の国際協力にかけた思いや日本のODAの問題点について考える。	・TV「知ってるつもり」の「中田正一」のVTR
2時限 日本のODAの問題点	「中田正一」のVTRから日本のODAの問題点を指摘する。かつてODAが公害輸出につながったケースがあることを知る。	・教科書「現代社会21」 （三省堂） ・「新現代社会資料集」(令文社)
3時限 日本のODAの特徴	日本のODAは金額では世界有数だが、対GNP比は0.2%でDAC21カ国中19位、贈与比率は48.8%、グラントエレメントは82.3%でいずれも最下位となっていることを知る。	・教科書「現代社会21」 （三省堂） ・「新現代社会資料集」(令文社)
4時限 貿易ゲーム	先進国・産油国など資源の豊かな途上国・資源のない途上国の3グループに分け、貿易ゲームを行う。金も技術もある先進国に対し、途上国の苦しい現状にゲームを通して気づいていく。	・紙、クリップ、ハサミ、定規、コンパス、分度器、シャーペン
5時限 メキシコ社会の現状	メキシコの人口や民族、貧富の差の大きな社会、インディヘナの貧しい生活などメキシコ社会の抱えるさまざまな問題について知る。	・「ピバ・メヒコ21」 （日本メキシコ学院）
6時限 メキシコにおけるJICAの活動	今回の研修で撮影したデジカメの映像により、青年海外協力隊やシニアボランティアの活動現場を見て、その意義について考える。	・パソコン、CDR ・プロジェクター

授業の詳細

1時限 ミスターNGO中田正一

TV「知ってるつもり」で放送された「ミスター

NGO中田正一」のVTRを見た。中田氏は初めての途上国への農業技術指導でアフガニスタンへ行った。そこで彼が見たものは緑豊かな田圃であった。以後彼は途上国への国際協力にのめり込んで行くが、そこで彼

は物と金をばらまくだけの日本のODAの現状に気づいた。ここで生徒には日本のODAの問題点について考えてもらいたい。ソ連侵攻後、荒れ果てたアフガニスタンに再び緑を取り戻そうとする中田氏の情熱から、生徒には国際協力にける彼の思いをくみ取ってほしい。また中田氏の後継者である石田氏が現在アフガニスタンで井戸を掘っているが、2001年10月以降のアメリカ・イギリスによるアフガニスタン攻撃でその井戸も瓦礫に埋もれてしまった。このことから生徒には、紛争が難民を生み、環境を破壊し、低開発と貧困につながっていることを学び取ってほしい。またこうした紛争を無くすために日本が果たすべき役割についても考えてほしい。生徒たちは井戸が完成して水浴びをしながら大喜びしている現地の子供たちを見て、中田氏の『国際協力は人が出ていかなくちゃだめ』ということばに納得し、技術協力の重要性を実感したようだ。また、何か自分にできることがあれば進んで取り組みたいという気持ちになった生徒も少なからずいた。

2時間 日本のODAの問題点

前回の授業で見た『ミスターNGO中田正一』のVTRから日本のODAの問題点を整理した。生徒からは『物と金をばらまくだけの援助』『機材を援助しても現地に動かす燃料を買う金も無かったり、故障しても部品がなかったりで、3年ほどでスクラップになっている』といったことが指摘された。

教科書では、1984年に日本のODAでフィリピンのカラカに石炭火力発電所が建設されたが、日本では当然つけられる公害防止装置がつけられなかったため、現地に大気汚染や地下水汚濁などの公害が発生したことや民間企業の海外進出が公害の輸出につながっているケースがあることを学んだ。

3時間 日本のODAの特徴

教科書の『ODA援助のこれからの役割』という箇所、日本のODAの特徴を整理した。日本のODAは金額では世界で1・2を争うまでになっているが、国連の求めている『先進国はGNPの0.7%をODAに』と比較すると、1996年の統計で日本の場合対GNP比0.2%

であり、これはDAC21カ国中19位である。また贈与の割合が48.8%と他国に比べて極端に低く、したがってグラント＝エレメントも82.3%であり、いずれもDAC21カ国中最下位となっていることがわかった。

また、日本の場合、援助される相手国の立場より日本の企業の利益を優先する傾向があること、日本の政府や企業が途上国の権力者と結び付き、援助が相手国の国民のためのものにならず、権力者の利益につながっていることなどを学んだ。生徒は、こうしたことから、これからは現地住民と環境に優しい援助が求められているに気づいていった。

4時間 貿易ゲーム

各クラスを6班に分け、先進国2班・資源の豊かな途上国2班・資源の少ない途上国2班に分けて、貿易ゲームを行った。先進国Aには1500ドルと紙1枚・ハサミ・定規・コンパス・分度器・シャーペン、先進国Bには1500ドルと紙2枚・ハサミ・定規・コンパス・シャーペン、資源の豊かな途上国Cには700ドルと紙15枚・ハサミ・シャーペン、資源の豊かな途上国Dには700ドルと紙12枚・三角定規・定規・シャーペン、資源の少ない途上国Eには500ドルと紙2枚・三角定規・シャーペン、資源の少ない途上国Fには500ドルと紙2枚・分度器・シャーペンを最初に配布した。各班は一辺10cmの正三角形や半径5cmの円、分度器の型を紙から切り取り、正三角形は200ドル、円は300ドル、分度器の型は100ドルで売り、(ただし金額は変動する)最終的な金額の多さを競った。先進国はハサミ・コンパス・定規など技術力に恵まれ、資源の豊かな途上国から紙を買い入れ、お金を増やして行った。資源の豊かな途上国も紙を売る代わりに、先進国からハサミやコンパスや定規を借り入れ、しだにお金を増やして行った。これに対し、資源の少ない途上国は先進国にハサミの借用を申し入れてもお金が少ないため相手にされず、お金を増やすことができなかった。生徒たちはハサミやコンパス・定規が技術力を表していること、紙が資源を表していることにしだいに気づいて行った。資源に恵まれない途上国に当たった生徒は、先進国の班から冷たくあしらわれたことを悔しがっていた。現在の国際経済のシステムもまさにこのような状

態であり、生徒たちには資源に恵まれない途上国の気持ち理解できたように感じた。

5時限 メキシコ社会の現状

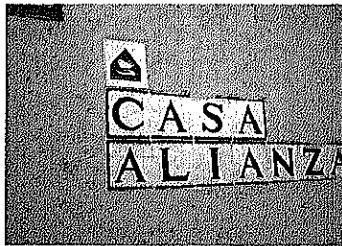
メキシコの人種構成は白人が約10%、インディヘナが約10%、メスチーソと呼ばれる白人とインディヘナの混血が約80%であるが、白人が富を独占し、支配層を構成している。メキシコ社会は典型的な階級社会であり、貧富の差が大きい。現在人口は約1億人で、首都メキシコシティーは地方からの出稼ぎ者の流入もあり、2000万の人口が集中している。増え続ける人口のため、スラムなどの都市問題やゴミ処理などの環境問題が深刻化している。山間部に住む人々の生活は水道・電気などのライフラインも十分に整備されていないし、また医療サービスも不十分なため子どもの健康や発育に悪影響を与えている。メキシコでは中学校まで義務化されたのが1993年からで、中学校を卒業していない人も多いため、職業選択の幅が狭い。また近年ストリート=チルドレンが増加しており、麻薬の汚染・売春とそれに伴うHIVその他の性病など彼らを取り巻く状況は厳しいものがあることを学んだ。生徒たちは、麻薬が中学生まで降りて来ていること、メキシコの高校生が政治の民主化を強く求めるなど自分

たちに比べて高い意識をもっていることに驚いていた。

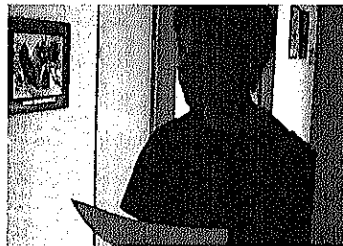
6時限 メキシコにおけるJICAの活動

カサアリアンサ ① でストリート=チルドレンへの青少年活動に従事している片桐功隊員 ②。現地スタッフや子供たちから『イサオ』と親しまれ、呼ばれていたのが印象的だった。また北村専門家 ⑥ もカサアリアンサで、少女たちの性の健康のために活動されている。メキシコシティーでは山本専門家 ⑦ がゴミ処理システムの改善 ⑧、⑨、⑩ に努力されていた。ヴェラクルス州コサウトラン市のレモン村では塚田千夏隊員 ⑪ が、お母さん方による村おこし事業である陶芸の指導に活躍されていた。水道も完備されていない村 ⑬ でひとり頑張っている姿に感動した。同じくヴェラクルス州ハラバ市の病院では樋口愛隊員 ⑭ が専門的な知識のない看護婦さんの指導にあたっておられた。また、ハラバ市のガンセンターでは入江専門家 ⑯ が子宮頸ガンの早期発見のために尽力されていた。

生徒たちは特に若い女性が日本人のほとんどいない場所でたったひとりで活動している姿に感心していた。



①



②



③



④



⑤



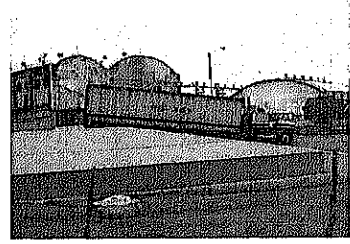
⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



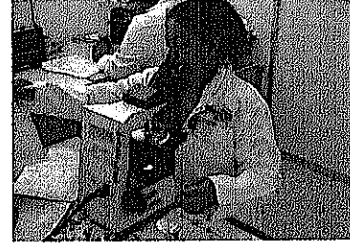
⑮



⑯



⑰



⑱

参加動機およびプロフィール

ここ十数年、世界史の教員として考え続けてきたことがあります。それは、東西冷戦が終わったにも関わらず、なぜこんなにも紛争の多い時代になってしまったのか、ということです。表面的には民族の対立、宗教の対立というのが見えてきます。しかし、その背景には貧困の問題があると思います。そんなことを授業で生徒に伝えていた時、中田正一氏に出会いました。氏の『国際協力は人間が出なくちゃだめ』という言葉に強く共感し、授業でも「資金協力だけではなく、技術協力こそが途上国にとって大切だ」と教えてきました。しかし、残念なことに私は青年海外協力隊やNGOの現場活動をこの目で見たことはありませんでした。ぜひこの目でそれを見たい、そしてそれを生徒に伝えたいという気持ちが大きくなり、今回の応募となりました。私は1995年、41歳にして初めて海外へ行きました。その地はラオス。そこは何かしら懐かしさを覚える土地でした。素朴な人々、はにかんだような少女の笑顔、そして「星降る夜というのはこのようなことを言うのか」と感動した満点の星空。この環境を守りながら開発を進め、人々の暮らしをより豊かにし、貧困を克服し、紛争をなくさなければならないという思いから開発教育に取り組んできました。

「メキシコ」から見えること (ラテンアメリカ社会の特色)

藤田 憲弘

FUJITA NORIHIRO

地理歴史

広島県立福山工業高等学校

●実践教科 …………… 地理歴史(地理A)

●時間数 …………… 8時間

●対象生徒・学年 …………… 1年生 7クラス

●対象人数 …………… 283名

カリキュラム

実践の目的

- ・メキシコを例に、自分たちの異文化地域を持つイメージがどのようにつくられたか、問い直す。
- ・メキシコに代表されるラテンアメリカの現状を多

角的な角度からとらえるなかで、自分たちと違う世界・人間を客観的に見つめる視点を養う。

- ・さらに、自分たち自身の暮らしをも客観的に見つめなおし、工業高校卒業生として、「技術を持った者が、社会のなかで主体的に生きる」ヒントにつなげたい。

授業の構成

時限・テーマ(約50分)	(使用教材)
1～2時限 「メキシコって?」「日本って?」 ある国・地域のイメージをどのように持つようになったか、メキシコを例に考える。逆に、日本がどのようにイメージされているか、予想し、自分たちの文化を客観視する。	(1) 「メキシコと聞いて・・・」のアンケート結果を受け、その内容について討論する。 (2) 逆に、メキシコ人が日本に対して持つイメージを予想する。 (3) メキシコで目にした「日本」を知る。 (4) 自分たちが、「日本」を紹介するとすれば、どういうVTRを作るか、絵コンテにしてそれぞれ考え、その案をお互いにごつける。(集約した案で、VTR製作予定)
3時限 「なぜ、タコスなの?」 メキシコの衣・食といった生活に焦点をあて、環境と生活との関係を理解する。	(1) フォトランゲージ(服装に着目)で、メキシコの気候を予想し、変化に富んだ国土であることに気づく。 (2) タコスの作り方を見て、その食材の背景にあるラテンアメリカの伝統的農業と、それを可能にしてきた自然環境について、整理する。
4時限 「なぜ、モニカは路上に出たのか?」 都市問題のひとつであるストリートチルドレンの問題についてその背景を考える。	(1) VTRから、ある子どもの姿を知る。また、カサアリアンサ(ストリートチルドレンのケア施設)の様子を見て、そこで行なわれていることを知る。 (2) 資料や写真から、そうした現状の背景を考える。 (3) 他にも、ごみ問題等、都市のかかえる問題を考えるとともに、そこで格闘する日本人の姿についても知る。

5～6時間 (テーマなし)

5～6時間

レモン村から見えるもの

都市に対して地方がどういう状態にあるのか知り、国内にも存在する南北問題に気づき、それが国内外でどういう状況を生んでいるか、とらえる。
また、前回の都市問題や今回の地方の問題に対して、「自分が大統領だったら？」という政策をとるか、シミュレーションし、この国のかかえている問題の構図を客観的に把握する。

- (1) 地方のある村(レモン村)の様子をVTRで見て、気づいたことを話す。
- (2) 出稼ぎや一家転住の現状を紹介し、前回の都市問題とのつながりに気づく。出稼ぎ・移住の多くは国内の大都市だけでなく、USAにもおよんでいることに、写真やVTRから把握する。(ヒスパニック社会)
- (3) チアパス州のニュース写真から、地方の先住民の心にある不満を代弁する。その背景にある先住民のたどってきた歴史も、壁面の写真を持ち、それにストーリーをつけながら大まかにとらえる。
- (4) シミュレーションに際して、むこうの高校生が政治にどういう不満を持っているか、アンケートを再利用する。

・自作VTR (資料4)

・国境越えのニュース写真
VTR = (アメリカ映画)

・サパティスタに関する新聞記事
写真 = (遺跡)
写真 = (壁画) (資料5)

7時間

「真国でくらすとしたら？」

バーンガを通じて、異文化のなかへ入っていくことを疑似体験する。

- (1) 異文化体験ゲームであるバーンガというカードゲームをする。
- (2) カードゲームを通じて、感じたことを話す。例えば、「メキシコという異文化地域に移住するとしたら」と投げかけ、次回へのつながりとする。

・トランプ
・ルールシート

8時間

日本とメキシコ

日本とメキシコの過去から現在の関係をとらえ、これからの日本の役割、そのなかでの自分について、考える。

- (1) 日系移民の人が書いた手記を読み、前回のゲームで感じたことを思い起こす。質問に答えながら、移民のたどってきた歴史をおおまかに整理する。
- (2) 本時まで、身のまわりで、メキシコ製(あるいは、中南米)の製品を探しておき、発表する。現在、マキラドーラ(保税加工区)に進出して、メキシコ製の製品を産出している先進国との関係を考える。
- (3) 企業だけでなく、メキシコに行って活動している芸術家や協力隊等の姿をVTR等で見て、彼らの生き方を考える。

・メキシコ現地理解学習教材・資料「ビバ・メヒコ21」(日本メキシコ学院)

・ワーゲンの写真
(メキシコ製)

・自作VTR

捕足
文化祭展示「世界への扉」

授業の補足として、文化祭展示をおこない、メキシコで見てきたことの報告や、JICAの活動について、展示紹介をする。

・JICA写真パネル
・衣装等 (資料6)

授業の詳細

1～2時間 「メキシコって?」「日本って?」

この単元は、世界の多様な民族の生活を理解する一環として設定した。まず、ある国や地域のイメージを自分たちはどのように持ち、それがどうやって形成されたか考えようと、メキシコを例に、メキシコについて持っているイメージを書き出した。結果は、予想通り、「タコス」や「テキーラ」などで、なかには、「フラメンコ」などスペインと混同したような答えも多かった(資料1)。また、その情報源については、お菓子のCMであったり、ワールドカップのニュースであったりしたが、まだメキシコについての情報はあ

うで、特に途上国についての情報は貧困で、それが、途上国に対する偏見を生んでいることは、日々の授業のなかで感じることである。まず、「知ること」から、その国や地域について判断していこうと呼びかけた。

では逆に、日本に対して他の国、例えばメキシコの高校生がどういうイメージをいだいているだろうか。これについては、実際に現地の高校生にアンケート(資料2)を取り、その結果を紹介した。また、現地で紹介した私たちの生活風景VTR(自作)を、本校生徒にも見せ、「自分たちの生活ではあたりまえのこうした日常風景のなかで、どういうシーンが、向こうの高校生には、不思議に見えたと思う?」と投げかけた。現地の高校生たちは、日本の高校生たちの比較

的豊かな量の弁当や、掃除を自分たちでする姿などに、大きな反応を示していたが、そうした話に、生徒たちは、自分たちにとっての「あたりまえ」が、海外から見たら、「あたりまえでない」ことにある程度納得した様子であった。さらにもっと、「日常生活のなかにある日本文化的なものをさがしてみよう」ということで、「自分たちが日本を紹介するとすれば」というテーマで、それを絵コンテにした。またこれで、「日本紹介VTRその2」を製作してみたいと思っている。

4時間 「なぜ、モニカは路上に出たのか？」

途上国に行って、我々がショックを受けることの一つは、子どもたちの働く姿であろう。例えば、ある公園で出会ったモニカという女の子は、8歳、8人兄弟で、朝早くから、夜の10時半までお菓子を売り歩くという（自作VTRで紹介）。なかには、麻薬に手を出したり、身体を売る女の子も路上にいる。生徒たちに、その現状を紹介すると、「かわいそう」とか「きたない」とかいった貧しい反応が返ってくるが、そうした現状紹介に終わらせないで、子どもたちの生活の背景を探った。これには、日本メキシコ学院でいただいた「ビバ・メヒコ21」メキシコ現地理解学習教材・資料として最近つくられたもので、メキシコの社会を歴史的・地理的視点等からわかりやすくとらえている）が役立った。

また、路上生活から立ち直ろうとしている子どもたちをサポートしているNGOの施設をVTR（自作）や写真（資料3）で紹介するとともに、そこで働いている日本の青年にもスポットを当ててみた。彼は、「人を相手にする仕事がしたい」と、某有名工業大学を休学し、ボランティアで来ている。また、仕事の延長として自分の技術を生かして、例えば大都市のゴミ問題と格闘している人などもいる。そうした人たちの姿も紹介することで、自分たちの生き方を考える材料になればと思った。こうした協力隊の素顔については、この単元の最後の時間でまとめて紹介し直すとともに、JICAからパネルをお借りし、11月の文化祭で、展示を行なった（資料6）。

5～6時間 レモン村から見えるもの

前時の都市問題の対極には、地方の貧困ということがあるわけで、それについて、我々が訪れたレモン村というある山村を題材にした。まず、生徒は村の様子をVTRや写真（資料4）で見て、気づいたことを話し合った。「道がせまい」、「女性や子どもが多い」、「産業がない」、「水は、どうしているのだろう」など、いろいろな反応があったが、それらを整理するなかで、地方の現状というものを理解し、都市へ、あるいは、国境を越えてアメリカまで流れていかざるをえない状況を納得していった（レモン村でも、男性の多くは、アメリカへ出稼ぎに行ったまま帰って来ない。そのなかで、村の主婦たちが協力隊とともに、村起こしとして陶芸をしている）。さらにその結果、アメリカで大きな勢力となっているヒスパニックの現状もアメリカ映画のシーンなどから紹介した。

このように、メキシコに対してアメリカという豊かな国があり、メキシコのなかでは地方に対して都市があり、という構図を見ていくとき、最底辺にいきつくのは、先住民であろうか。先住民の貧困は、いたるところで耳にし、こうした先住民のたどってきた歴史もおおまかであるが、とらえておきたいと思った。メキシコは、壁画の国でもある。これを利用してもらって、壁画の絵に描かれていることにストーリーをつけることで、先住民の歩んできた歴史に触れた（資料5）。

最後に、「自分が大統領だったら、この国の問題解決のためにどういう政策をとるか？」というシミュレーションにそれぞれの考えを書くことに取り組んだ。「人口政策」、「地方に産業をおこす」など、短い文章ながら、それぞれ考えをめぐらしていたが、貧困の背景にあるものを見ようとする視点を少しは養えたのではないかと思う。

8時間 日本とメキシコ

明治以降、さまざまな地域へ移民として渡っていった日本人たちの歴史は、壮大なものがある。そのひとつとして、メキシコの例を、初期の榎本移民団の苦勞話や戦争中に日系人の人びとが置かれた立場など、日本メキシコ学院の資料から読み感想を募った。「何で

わざわざいかにやあいけんのん？」という反応に答えるには、その歴史的背景を理解させるだけの時間はなかったが、移民の人びとの苦勞には、心を打つものがあつたと思う。それに対して、現在、日本や欧米の企業がマキラドーラ（関税保護区）に進出したり、あるいは、日本にやって来ている日系人の労働力の利用の仕方には、「（日本のやり方は）ずるい」などという感想も返ってきた。

また、そうした経済的な打算ぬきに、現地で援助活動している日本人の姿を集大成（自作VTR）して見

せた。「僕らにはとても…」という雰囲気であったが、何かを感じ取ってくれた生徒もいたことと信じたい。



資料1 1～2時限 本校生徒のメキシコに対するイメージ

「メキシコと聞いて思い浮かべることは？」 *複数回答可

1位 タコス (93)	10位 情熱・陽気 (11)	17位 不法・密入国 (5)
2位 テキーラ (36)	*情熱：7 陽気：4	17位 ギター (5)
3位 ぼうし (34)	11位 砂漠 (11)	17位 黒人 (5)
*うち、「ソンプレロ」：6	12位 アミーゴ (8)	*少数回答
4位 マラカス (33)	12位 タバスコ (8)	タンゴ (2)
5位 暑い (32)	12位 撃ち合い・西部劇 (8)	フラダンス (2)
6位 サボテン (21)	15位 カウボーイ (7)	ファイヤーダンス (2)
7位 踊り・ダンス (15)	15位 ボンチョ (7)	ルチャリブレ (1)
8位 フラメンコ (14)	17位 ひげ (5)	トルティーリャ (1)
9位 サッカー (13)	17位 辛い (5)	



*生徒によるイメージ画

*本校1年生生徒の「行ってみたいところ」

1・オーストラリア…32	2・USA…29
3・イギリス…19	4・イタリア…15
5・フランス…14	6・韓国…12
7・ハワイ…9	8・中国…7
8・ドイツ…7	10・ブラジル…5

資料2 1～2時限 メキシコの高校生に聞きました（抜粋）

☆日本についてのイメージは？

- ・高い技術を持った国で、文化や伝統もある。人々が自分自身の国の発展を考えている国
- ・工業化され、とても規律正しい国。これまでの歴史の局面でとった行動は、尊敬に値する。
- ・とても発展した国で、種々の技術力と物事を成し遂げる能力と実行力を持った人々の国。原爆などの災難にもかかわらず進歩を成し遂げたことと人々の親密性は、日本を強い国にしている。
- ・すばらしい技術。特にデジタル工学。すべての人に規律がとれており、優秀な教育がある。
- ・物価が高い国。
- ・町の文化や建物など、とても美しい。生徒はとても良い教育を受けており、とても清潔ですばらしい技術を持っている。人々は、（あなた方のように）きれいな。
- ・たくさんの人間を秩序立てる考え方や行動がとても知的。
- ・日本は、とても組織が整った国で、このことによって、世界のなかで技術の突出した国のひとつとなっている。組織的なことは、いいことだ。

☆自分の国について、好きなところときらいなところ

- ・観光地における文化的・自然的な豊かさ、美しさ。きれいなのは、政府のあり方、治安の悪さ、勉強することが困難なこと。つまり、経費が高いこと、環境破壊、人々が時間を大切にしていないところもきれい。
- ・豊かな自然と文化を持っていること（残念ながら、若い人々はあまり興味がなく、伝統が失われ続けているが）。短所は、メキシコ経済は貧困層に恩恵を与えず、益々格差を拡大させていること。特にインディオの人々に。
- ・古い文明によってつくられた文化や建築など（ピラミッド）。反対に、治安がとてつもない。外出したり学校へ行くなど、とても危険である。
- ・親切で好感の持てる人がある。そうした人々の文化や伝統が好き。逆に、権力のある人がきれい。例えば、大統領、警察など。彼らはみな、汚職行為をしている。
- ・いやなのは、この国の貧困について知らぬ顔をする人がいること。

☆将来、どんな夢を持っていますか？

- ・大学を卒業して自分の専門職に就くこと。そして、もっと知識をつけて家族のためにつくす。
- ・機械工学課程を修了して、自分の工場をもつこと。
- ・コンピューターシステムのすぐれたエンジニアになり、家庭をもつ。
- ・すべての人により良い未来があるようにすること。
- ・まず、学校を卒業すること。なぜならこの国では、勉強しないと最低賃金で仕事をせねばならず、少なくとも中卒の資格は不可欠である。次に心理学者になりたい。この仕事は、心に傷を負った人々を救うことができるから。
- ・良い市民となり、専門職を身につけ、人格的にもすぐれること。
- ・勉強を続けて社会人となり、世界を知ること。特に、日本へは、これまでずっと行きたいと思っていた。そして、日本の技術や発展を知りたい。
- ・学校を卒業し、就職して資格を持つ。働いて成功し、両親を助ける。
- ・勉強を終え、良いポストを得るための準備をし、その後家庭をもつ。
- ・勉強を続け法律か医学を修め、人生を楽しんで結婚して3人の息子を持つ。

資料3 4時限 ストリートチルドレンのケア施設にて



彼らの服装から、気候も想像してみよう。

資料4 5～6時限 ある地方の現状 (レモン村)

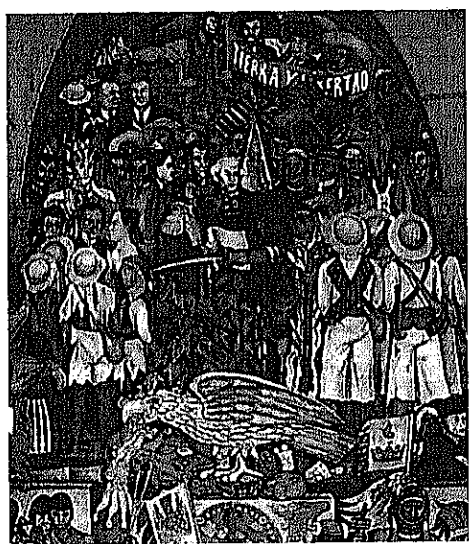


村のメインストリート 子どもや女性が目立つ。



雄大な渓谷を前にしても寂しげな主婦の背中。夫は、都市へ出て、帰って来ない。

資料5 5～6時限 壁画から歴史を推理する



資料6 文化祭での展示「世界への扉」



参加機関およびプロフィール

私の異文化初体験は今回の訪問国メキシコでした。20年前ラテンアメリカに憧れを抱いて旅した私でしたが、至る場面でカルチャーショックを受けました。特に大きなショックだったのは子ども達が日々生きていくために働かざるを得ない姿を突きつけられたことです。貧困が教育の機会を奪い、子どもに豊かな未来を夢見させることができない社会がある一方、この一見豊かに見える日本社会で暮らす我々に何が出来るのか、何を考えなければならないのか、社会科の教員として見つめていこうとしてきたつもりです。しかし実体験の限られた自分から出る言葉には限界があり、ともすれば途上国の負のイメージを植え付けるだけに終わる危険性さえ持っています。そこで今回の研修に参加し今後の授業に生かすと同時に、一人の市民として何か活動できるヒントを掴むことができればと思い応募しました。社会科教員として、ときには視聴覚教材、ときには料理を作ってみたりと、異文化理解のための教材を自分なりに工夫して集め生徒に提示してきたつもりです。クラブ活動ではラグビー部の顧問をしているため、ラグビーを通して世界に目が向けばと市内近辺のラグビー経験のある外国人と積極的に連絡をとり、交流の機会を設けたりしています。

